

< 26-03 >
2026年02月

先生各位

「便中カルプロテクチン(ラテックス凝集比濁法)」 新規受託開始のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

平素は、格別のお引き立てを賜り厚く御礼申し上げます。

このたび、標記検査項目におきまして、検査委託先より所要日数短縮を目的として、ラテックス凝集比濁法の試薬を用いた検査の受託を開始する旨の連絡がございましたので、ご案内いたします。

何卒、ご利用賜りますようお願い申し上げます。

謹白

記

■新規受託項目:

項目コード	検査項目名	検査方法
4134	便中カルプロテクチン(LA)	ラテックス凝集比濁法

- 当該検査の受託開始に伴い、現行のカルプロテクチン糞便(FEIA)(項目コード:5771)は2026年3月31日(火)ご依頼分をもって検査の受託を中止させていただきます。

■新規受託開始日:

2026年 3月 2日(月)受付分より

※専用容器は、ご注文後、2月25日(水)より順次お届けいたします。

<ご案内>

- ・項目コードが新規登録となるため、電子カルテ・健診システム等をご利用の際は、お使いのメーカーのサポート窓口へ項目紐付けの依頼をご連絡ください。

以上

※ 裏面をご覧ください。

●便中カルプロテクチン

カルプロテクチンは主に好中球に存在する炎症応答蛋白質で、腸管炎症時に糞便中に流出するため、糞便中濃度は腸管炎症の程度を把握することが可能です。

潰瘍性大腸炎(UC)とクローン病に代表される炎症性腸疾患(IBD)の診断や活動性の評価には、内視鏡検査での観察と組織評価が必要ですが、侵襲的な内視鏡検査は患者様の負担が伴います。本検査はIBDなどの器質的疾患と過敏性腸症候群などの機能性腸疾患の鑑別や、潰瘍性大腸炎とクローン病の病態把握に有用な非侵襲的な検査です。また、臨床的に寛解状態における糞便中カルプロテクチン濃度の上昇は再燃につながる事が報告されており、再燃予測が可能となります。

この度、所要日数短縮を目的として、ラテックス凝集比濁法の試薬を用いた検査の受託を開始いたします。

なお、この変更に伴い、項目コード No、検査方法、検体容器、保存方法、単位、報告日数、報告範囲を変更いたします。

	新 法	現 法
項 目 コ ー ド	4 1 3 4	5 7 7 1
検 査 項 目 名	便中カルプロテクチン	
検 査 方 法	ラテックス凝集比濁法	F E I A法
検 体 容 器	専用容器	採便容器【29】
保 存 方 法	冷蔵	凍結
基 準 値	50.0 以下	同左
	炎症性腸疾患の診断補助： 50.0 以下 潰瘍性大腸炎の病態把握の補助： 300.0 以下 クローン病の病態把握の補助： 80.0 以下	炎症性腸疾患と機能性腸疾患との カットオフ値：50.0 潰瘍性大腸炎の内視鏡的活動性評価の カットオフ値：300.0 クローン病の内視鏡的活動性評価の カットオフ値：80.0
単 位	$\mu\text{g}/\text{g}$	mg/kg
報 告 日 数	2 ~ 5 日	3 ~ 6 日
報 告 範 囲	20.0以下 ~ 2720.0以上	3.8以下 ~ 6000以上
報 告 桁 数	小数第1位	同左
保 険 点 数 検 査 判 断 料	268点/尿・糞便等検査判断料 (34点)	同左
備 考	専用容器にてご提出ください。 他項目との共用依頼はできません。	単独検体にてご提出ください。 他項目との共用依頼は出来ません。 採取後3日以内に凍結してご提出ください。

【専用容器と専用の提出用袋】



新規受託項目の検体採取方法は、専用容器に添付されている説明書をご参照ください。

糞便を採取した専用容器は専用の提出袋(紫色)に入れてご提出ください。

《新法と現法の相関》

